

ふれあい

平成22年 7月 第292号

大代地区コミュニティ推進協議会
〈広報部〉
事務局：大代地区公民館
☎364-8442

〈掲載目次〉

- ふれあい花壇に思う・・・1
- 北上視察研修・・・2
- 必ず投票いたしましょう・・・2
- 多賀城市総合防災訓練参加の御礼2
- ボランティア活動の一環として・・・3

- 夏祭り予定・・・3
- 大代の歩み(二十八)・・・4
- ふれあい短歌(夏休み特集)・・・4
- ふれあい俳句・・・4

ふれあい花壇に思う

大代南区町内会長 橋本 浩

町内では今年も横穴古墳前の花壇にきれいな花が咲き誇っています。

地域の皆さんに少しでも心を癒してもらえよう町内会で永年にわたり草取りや花植え作業の維持管理に努めています。が、作業に当たる方々も年々高齢化が目立ち、作業の継続が困難になっています。

そこで、町内総ぐるみで花壇の管理をしようとのことで環境部長が中心になり呼びかけましたところ、先日は一度に七十名も手伝いに参加していただきました。お陰様で普通なら二時間もかかる約三十分位で作業を終了することができました。



地域の皆様、忙しいところ本当にありがとうございます。この作業には年間約十回程度延べ三百人の方々にお手伝いをいただいております。

私たちは今回の件で、今まで、ややもすると一部の人で行っていたことを町内が一つになって活動することでより強力な団結力、協調性が出来、お互いが理解しあえるものを感じました。

今後は出来るだけ多くの方々の参加が得られるような体制で進めていきたいと思っております。和気あいあいで作業も楽しいものです。

北上視察研修

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 熱海 五郎

去る六月二十一日(月)、地域主体で活動をしている岩手県北上市の二子地区交流センターへの視察研修を行いました。

目的は、今後大代地区でも行われていく、地域主体での運営ノウハウを学ぶこと、また運営状況として、どのような問題点や課題があるのかなどを質疑応答を通して研修することでありました。

参加者は、コミュニティ役員・推進委員・顧問・市職員・事務局員のあわせて二十二名でした。予定通りの時刻に到着し、二子町振興協議会長の及川さん、二子地区交流センター長の滝澤さん、事務長の及川さんの出迎えを受けました。

始めに二子町振興協議会長の及川さんから、二子地区の特徴を紹介してもらいその後、質疑応答に入りました。

センター立ち上げ時の困難、問題点として、どうして(地域主体で)やらなければならなかったのかという気持ちの変化に時間がかかったということ、公民館時代の生涯学習事業だけが仕事だと思っっている方もいたとのことでした。しかし地域拠点化から五年がたち、地域の施設という意識が強くなったとのこと、地元

の方の利用者は増加しているとのことでした。

一時間三十分の研修時間であったにもかかわらず、質問が途切れることもなく、また回答していただいたセンター長の滝澤さんのわかりやすい説明で非常に短い時間に感じ、有意義な研修であったと感じました。

今後大代地区も地域拠点化に向けて北上で研修してきたことを生かし、よりよい地域作りを生かしていきたいと思います。

必ず投票いたしましょう

大代地区明るい選挙推進委員会

来る七月十一日(日)は参議院議員選挙の投票日です。

今度の選挙は、国政の今後を占う大事な選挙です。この機会にあなたの大切な一票を行使することで国政に参加された証となります。棄権をしないで必ず投票いたしましょう。

投票日の時間は、午前七時から午後八時までとなっています。また投票日に都合が悪く投票が出来ない方は、期日前投票(不在者投票)を行ってください。期日前投票は多賀城市役所内の選挙管理委員会にて受け付けています。

期日前投票の期間と時間は六月二十六日から七月十日までの各午前八時三十分より午後八時までとなっています。また、小さな子どもをつれても投票所に入れますし、印鑑もいりませんので、ぜひご利用ください。

投票日は七月十一日(日)

多賀城市総合防災訓練

参加の御礼

大代地区防災対策協議会

会長 米澤 まき子

六月といえば県の防災の日、本市においても、市民防災意識を高め、市民の安全・安心及び生命財産を守る五年に一度の防災訓練が六月十三日に挙行。防災機関と市民が一体となり、多賀城駐屯地内グラウンドを主会場に大代五区から三百六十一名の方々が参加しました。

自主防災組織の目立ったユニフォームに身を包み、バケツリレー等の訓練にチームワークと手際良さを発揮されました。地域の皆様、各団体関係者の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。正に地域力に頼もしさを感じた一日でした。

ボランティア活動の

一環として

大代西区 佐藤 重太郎

平成十三年四月から始めた地域のロードを常にクリーンにしようと、始めたボランティアクラブです。団体名は太陽クラブとして発足して九年目になりました。現在十五人の会員で毎月第一日曜日の朝六時に活動しています。市の生活環境課、仙台東土木事務所にも加入し、スマイルサポーターとして活動記録も出しています。



実施場所は大代一丁目の念仏橋から笠神四丁目、貞山橋の約一・五km、通称産業道路の清掃活動です。一日に何

万台も車が走る道路なので、毎月ごみ袋に五袋位になります。歩道も子どもさん達が学校に通うところなので、悪い箇所があると市に連絡して修理してもらっています。県外や海外からの方も通る道路です。

私達が美化活動を始めた理由はある一人の高齢の方の活動でした。その方は朝に歩け歩け運動していました。小さいゴミ袋を持ってゴミを拾いながら歩いていました。草が伸びれば草刈りもやっていました。本当に頭を下がる思いをしました。そのような方の姿を見て私達も子ども達に見せて行く活動を続けてまいります。



夏祭り予定

ふれあい広報部

平成二十二年の大代地区の夏祭りは次の通りです。

〔大代東区〕 七月三十一日(土)

場所 石ヶ森一号公園

(雨天の場合は翌日)

〔大代中区〕 七月三十一日(土)

場所 大代地区公民館体育室

〔大代南区〕 七月三十一日(土)

場所 大和マンション前公園

(雨天の場合は翌日)

〔大代北区〕 七月三十一日(土)

場所 大代公園

(雨天の場合は翌日)

納涼と子ども達の健やかな成長を願い楽しい夏の思い出とするため多数のみなさまのご参加をお願いいたします。

内容は各地区それぞれ盛り沢山用意されておりますのでお楽しみに。

なお、この日程は六月二十四日現在の予定であり、諸事情により日程・会場が変更になる場合があります。詳しくは各区までお問い合わせください。

大代の歩み (二十八)

大代南区 渡邊 巖

江戸後期の政治状況が、多賀城地域内でどの様に展開し、又どの様な問題が生じたのか等、地域社会の変動の様子を概略ではあるが市史から拾ってみよう。

まず、経済活動が活発化して、地域間の商取引に様々な軋轢や対抗が発生した事例として、大代を含む八ヶ浜と塩竈との間に発生した魚と木材をめぐる確執について既述(十七号、二十号)したが、商取引上の最重要事項として村人が互いに遵守すべき取決めを記したのが『大代村の村掟』である。

その条文の中で重視されているのは駄送のことで次のようなものであった。

『大代村の者は、城下やその他の村や町或いは塩竈の市場に五十集(いさば)荷物やその他の荷物を運ぶ際、馬の背に積んだ荷が傾いて落ちそうになったり落荷した時は、互いに知らぬふりをせず、追いかけてでも力を合わせて手伝いをしなければならぬ。また漁場や駄送の途中で喧嘩口論が起きた時には居合わせた者が打ち寄って仲裁しなければならぬ。漁船その他の船が海上で遭難した時の救助、盗賊・火災・水難などの災害に遭った時の相互救助、家普請の手伝、法度を守るべきことや博奕の禁止等の取決めも

あるが、最も具体的なものは五十集荷の駄送の事で、違反者は連名帳から除名され、村の人々の協力は一切受けられないこと』になっていた。

既述の様に、一七世紀後半(天明・天保)の頃、大代も度重なる飢饉に見舞われ、家族の構成にも余儀ない変化を強いられた住民もあつたとおもわれるが、それらの状況については概略ではあるが次号に記す。

続く

ふれあい短歌 (夏休み特集)

大代西区 藤田 遊子

峡の子の初めて見たる 日本海

日本海海戦 知る由もなし

輪に入りて 忽ち習得 盆踊り

都会の生徒に 教へてやらむ

宿題を 忘れ遊びし 夏休み

一夜漬けせば 誤り多し

ふれあい俳句

大代西区 藤田 遊子

(出羽の旅特集)

狭隘の 山刀伐峠 白雨過ぐ

珍しや なすび味はふ 尾花沢

仟五段 登れば涼し 立石寺

最上川 下る船唄 風涼し

月山や 子らに乗せくる 雲の峰
涼しさや 裸足で渡る 湯殿山
五重の塔 密かに照らす 松の月

笠神西区 本郷 勝子

熊子連れ 鹿子連れ道連れ 山登り
雪かけて 熊の好物 曲り竹

鶯の谷 渡りオンパレード にぎり飯
露アイコ 東京の娘 宅急便
海と山 ナイスフットワーク 汗涙

白神山に登山しました。五月三十一日、六月三日秋田の友人宅に泊まりました。

鶯も谷を渡りして止まったまま鳴き、ちつとも逃げる様子がありません。自然を満喫し曲り竹取りで山は賑やかでした。秋田の友人の案内で毎年登っています。

八 幡 森 季子

若葉風 憂きことみんな 連れて行け

画板手に 学童の列 汗光る

菖蒲田の 土ひびわれて 祭り前

葭繁る 中州の主よ 行々子

だしぬけに 遠来の友 夏帽子